

名古屋東山周辺の昆虫相 追補1

内 藤 通 孝*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya Addendum 1

Michitaka NAITO

はじめに

2008年以来、「名古屋東山周辺の昆虫相」の甲虫目と半翅（カメムシ）目について順次まとめてきた。今回は、その後に得られた知見のうち、甲虫目のカミキリムシ科、クワガタムシ科、センチコガネ科、コガネムシ科、タマムシ科について報告する。

観察記録

学名・和名については、カミキリムシ科は『日本産カミキリムシ』¹⁾、クワガタムシ科は『日本産コガネムシ上科標準図鑑』²⁾、コガネムシ科は文献2)と『日本産コガネムシ上科図説 第1～3巻』^{3～5)}、タマムシ科は『日本産タマムシ大図鑑』⁶⁾に依った。原則として亜種分類は採用しなかった。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数、性（雌雄を鑑別した場合のみ♂、♀の記号を入れた）、採集（観察）日、観察場所（名古屋市を省略）の順に記した。採集（観察）日時は8桁（西暦年月日）で示した。時刻を表記する場合は24時間制で示した。体長は、標本の実測値を示し、標本が存在しない種については、文献による数値を示した。

例：「1 ex 19970707 13:20 (～19980403) 昭和区八事本町興正寺 体長5 mm」であれば、1例（雌雄区別せず）で、1997年7月7日の13時20分に名古屋市昭和区八事本町の興正寺境内で採集（観察）し、飼育下で1998年4月3日まで生存したこと、体長は5 mmであることを示している。

愛知県・名古屋市の分布については、『愛知県の昆虫（上）』⁷⁾および文献8)（タマムシ科）、日本・世界については文献1～6)を参考にした。日本については、本土（北海道・本州・四国・九州）に分布するものは「日本」とし、島嶼は省略した。『愛知県の昆虫（上）』および文献8)に名古屋市からの記録がない種の学名には*を付した。

* 生活科学部 管理栄養学科

1 カミキリムシ科 Family Cerambycidae

1-1 サビカミキリ *Arhopalus coreanus*

標本：1♂ 20080613 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（燈火に飛来）体長14 mm（写真1-1A）；1♀ 20080903 同所（燈火に飛来）体長22 mm；1♀ 20090828 同所（燈火に飛来）体長20 mm；1♀ 20130826 昭和区滝川町 体長22 mm（内藤美智子採集）（写真1-1B）

成虫はマツ類等の針葉樹にみられ、燈火に飛来する。寄主植物：各種針葉樹、とくにマツ科¹⁾。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国東北部

1-2 ツシمامナクボカミキリ *Cephalallus unicolor*

標本：1 ex 19650722 瑞穂区 体長16 mm；1 ex 19650811 同所 体長18 mm（写真1-2）

未同定のまま、標本箱に保管されていた古い標本であり（筆者が小学6年生のときの採集品），その後の追加はない。成虫はマツ類の倒木・伐採木にみられ、燈火に飛来する¹⁾。西日本では沿岸部，東日本ではむしろ山間部でみられる¹⁾。寄主植物：アカマツ，クロマツ，リュウキュウマツ，カラマツ¹⁾。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，インドシナ，アッサム

1-3 アカハナカミキリ *Aredolpona succedanea* *

標本：1♂ 20170715 名東区猪高緑地 体長14 mm（写真1-3）

『愛知県の昆虫（上）』には、名古屋市からの記録はない。寄主植物：マツ科および一部の広葉樹¹⁾。分布：日本，サハリン，アジア

1-4 ルリボシカミキリ *Rosalia batesi* *

標本：1♂ 20140805 名東区藤巻町 体長27 mm（写真1-4）

『愛知県の昆虫（上）』には、名古屋市からの記録はない。♂では触角第3～5節（♀では3～7節）端に黒色毛房を有する。本州ブナ帯の優勢種である。寄主植物：ブナ，シラカバ，サワグルミ，カエデ類など¹⁾。分布：日本（固有種）

1-5 ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus* *

標本：1 ex 20120723 千種区平和公園 体長15 mm（一色忍採集）（写真1-5）

「四つ筋虎」カミキリで、前翅に横行する4本の黒帯があるが、前方2つの黒帯は中心付近で癒合して、C字状に見える。『愛知県の昆虫（上）』には、名古屋市からの記録はない。海洋気候性で、主に沿海地方にみられる^{9,10)}。成虫は各種伐採木や花上に集まる。寄主植物：各種広葉樹・針葉樹¹⁾。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，台湾

1-6 トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis* *

観察・写真撮影：1 ex 20100417 10:54 千種区東山公園；1 ex 20180412 14:21 千種区平和公園（写真1-6A）

標本：1 ex 20140517 名東区牧野ヶ池緑地 体長9.5 mm（写真1-6B）

和名は、触覚第3・4節の先端が刺状になっていることから来ている。『愛知県の昆虫(上)』には、名古屋市からの記録はない。成虫はカエデ類、ゴゴメウツギ、ミズキなどの花に集まり、平地から山地にかけて普通である¹⁾。寄主植物：各種広葉樹・針葉樹¹⁾。分布：日本

1-7 キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes* *

標本：♂♀ 20150427 千種区平和公園 体長8~9 mm (写真1-7A, B：フジ枝上の♀, 1-7C：♂)

『愛知県の昆虫(上)』には、名古屋市からの記録はない。和名は「菊吸い」カミキリに似ているカミキリムシという意味である。一見、キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris* (キクスイカミキリ属 Genus *Phytoecia*。文献¹¹⁾ で報告) に似ているが、本種は別属(シナノクロフカミキリ属 Genus *Asaperda*) であり、キクスイカミキリと異なり、キク科植物につくわけではない。寄主植物：各種広葉樹の細い枯枝¹⁾。分布：本州・四国・九州、ロシア極東部

1-8 ワモンサビカミキリ *Pterolophia annulata*

標本：1 ex 20160522 千種区千代が丘猪子石中学 体長11 mm (一色忍採集)(写真1-8) 「輪のような紋のある、錆びたような」カミキリムシである。種小名 *annulata* も「輪」の意である。成虫は各種広葉樹、とくにフジやイチジクでみられる¹⁾。本州中部では、海流の影響を受ける温暖な地域に多い¹⁾。寄主植物：各種広葉樹¹⁾。分布：本州(中部以西)・四国・九州、朝鮮半島南部、台湾、中国、インドシナ

1-9 センノキカミキリ (センノカミキリ) *Acalolepta luxuriosa* *

標本：1 ♀ 20080617 千種区星が丘元町 体長28 mm (一色忍採集)(写真1-9A)；1 ♂ 20080801 昭和区滝川町 体長27 mm (写真1-9B)；1 ♀ 20100729 同所(燈火に飛来) 体長24 mm；1 ♂ 20150611 同所 体長30 mm；1 ♀ 20190625 同所 体長23 mm (写真1-9C)

『愛知県の昆虫(上)』には、名古屋市からの記録はない。体長(15~40 mm)¹⁾ に変異が大きい種である。ウコギ科(ハリギリ、ヤツデ、タラノキなど)の生葉、若枝を後食する¹²⁾。ハリギリは、センノキともいい、木材としては「栓」と呼ばれ、和名は、これに由来する。寄主植物：ハリギリ、ヤツデ、タラノキなどのウコギ科¹⁾。分布：日本、朝鮮半島、中国

1-10 クワカミキリ *Apriona japonica*

観察・写真撮影：1 ex 20120915 12:32 名東区牧野ヶ池緑地(写真1-10A：ヤマグワの若枝を齧る)

標本：1 ♂ 20080616 昭和区滝川町 体長32 mm (写真1-10B)；1 ♂ 20090723 千種区星が丘元町(燈火に飛来) 体長34 mm (写真1-10C)；1 ♀ 20150910 同所 体長45 mm (文献¹⁾ に記載された体長32~45 mm の上限値である)(加賀谷みえ子採集)(写真1-10D)

成虫はクワやイチジク¹²⁾の枝を食する。以前はクワの害虫として有名であった。寄主植物：各種広葉樹¹⁾。分布：本州・四国・九州

1-11 ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus* *

標本：1 ex 20080421 昭和区滝川町（燈火に飛来）体長11 mm（文献1, 12）では5.5～9.0 mm, 『原色甲虫図鑑（Ⅳ）』⁹⁾では7～10 mmであり、文献に記載されている体長より、やや大きい）（写真1-11）

『愛知県の昆虫（上）』には、名古屋市からの記録はない。成虫はオニグルミ、イヌシデ、ヤブニツケイ、サンショウなどの枯枝の樹皮を後食する¹⁾。新成虫は秋に羽化し、そのまま越冬する¹⁾。寄主植物：各種広葉樹¹⁾。分布：日本、朝鮮半島、中国、ロシア極東部

1-12 クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus*

標本：1 ex 20100622 昭和区滝川町 体長5.5 mm（写真1-12）

「蜘蛛のような形の、芥子粒のように小さい」カミキリムシの意である。寄主植物：各種広葉樹¹⁾。分布：日本

1-13 リンゴカミキリ *Oberea japonica*

標本：1 ♂ 20190714 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（死骸。桜並木の傍で採集した）体長16 mm（写真1-13A）

学名を与えられた日本最初のカミキリムシで、長崎出島に來日したスウェーデン人医師 チュンベリー Thunberg によって、帰国後の1787年に種小名 *japonica* と命名された。*japonica*（あるいは *japonicum*, *japonicus*）の種小名は頻繁に使われており、日本産カミキリムシだけでも25種に命名されている¹²⁾（例：1-10 クワカミキリ）。属が異なれば、同じ種小名を付しても構わないのである。腹部の第5節は黒色、他は橙黄色（写真1-13B）。植栽されたサクラに多い¹⁾。寄主植物：サクラ類、ナシなど¹⁾。分布：日本、朝鮮半島、中国東北部

2 クワガタムシ科 Family Lucanidae

2-1 チビクワガタ *Figulus binodulus*

標本：1 ex 20180603 名東区牧野ヶ池緑地（死骸）体長14 mm（大腮を含む）（写真2-1）

『愛知県の昆虫（上）』には、名古屋市中区松原が1987年に既知産地として報告されているが、現在も生息してる可能性はなさそうである。カシ類、サクラ類などの広葉樹の朽木につく¹⁾。成虫越冬、羽化後3年近く生存し、成虫が幼虫のために木屑を生産する亜社会性を示すことで知られる¹⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム北部

3 センチコガネ科 Family Geotrupidae

3-1 ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum*

標本：1 ex 20170730 千種区星が丘元町椋山女学園大学構内（死骸）体長10 mm（写真3-1）

本個体は前胸背板の黒斑が消失した型 (f. *nijimai*) である¹³⁾。公園の芝生, ゴルフ場, 放牧地などに生息し, 燈火に飛来する³⁾。分布: 日本 (固有種)

4 コガネムシ科 Family Scarabaeidae

4-1 コガネムシ *Mimela splendens*

標本: 1 ex 20150619 千種区千代が丘猪子石中学 体長17 mm (一色忍採集) (写真4-1)

「こがねむし黄金虫は金持ちだ」の歌 (作詞: 野口雨情, 作曲: 中山晋平, 1922年) にあるように, 金緑色に輝き, ときに赤紫~暗赤色を帯びる美しい種である (ただし, この歌の「黄金虫」はゴキブリのことだという説もある。他にタマムシ説もある)。成虫はイタドリ, ギシギシ, クズ, ノイバラ, オニグルミなどの葉を食する²⁾。分布: 本州・四国・九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国, ロシア極東部, インド, インドシナ

4-2 クロハナムグリ *Glycyphana fulvistemma*

観察・写真撮影: 1 ex 20140504 11:12 千種区平和公園 (写真4-2A: 左。コデマリの花上で。右はコアオハナムグリ); 1 ex 20180504 10:48 名東区猪高緑地 (写真4-2B: ハルジオンの花上で)

標本: 1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池緑地 体長13 mm (写真4-2C); 1 ex 20150511 昭和区滝川町 (死骸) 体長13 mm

ヒメジョオン, ネズミモチ, ガマズミ, イボタノキ, クリ, コデマリなどの花に集まる²⁾。成虫で越冬する²⁾。分布: 日本, 朝鮮半島, 台湾, 中国, モンゴル, ロシア南東部, インドシナ

4-3 アオハナムグリ *Cetonia roelofsi**

観察・写真撮影: 1 ex 20190505 11:50 名東区猪高緑地 (写真4-3)

体長15.6~20.2 mm²⁾。『愛知県の昆虫 (上)』には, 名古屋市からの記録はない。成虫はヒメジョオン, コゴメウツギ, ミズキ, ノアザミなど各種の花に集まる²⁾。成虫で越冬する²⁾。分布: 日本

4-4 シラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis*

観察・写真撮影: 1 ex 20190706 昭和区八事本町興正寺 (写真4-4A)

標本: 1 ♀ 20131116 (~20150423) 昭和区滝川町 体長22 mm (内藤美智子採集) (写真4-4B a 20131116撮影, b 20150419撮影); 1 ♀ 20160725 名東区藤巻町 (死骸) 体長21 mm (写真4-4C); 1 ♂ 20160730 (~20161121) 昭和区滝川町 体長21 mm (写真4-4D); 1 ♀ 20170702 同所 (死骸) 体長19 mm (写真4-4E); 1 ♀ 20180829 (~20190705) 同所 (燈火に飛来) 体長20 mm (写真4-4F)

以前は, 類似のシロテンハナムグリ *Protaetia orientalis* (文献14で報告) が名古屋東山周辺における優占種であったが, 最近, シラホシハナムグリが増加する傾向にある (写真4-4G: 左シロテンハナムグリ, 右シラホシハナムグリ)。両者の簡易な鑑別法は, 中胸腹板突起の形態の違いである (写真4-4H aシラホシハナムグリ, bシロテンハナムグリ。矢

印が中胸腹板突起)。シロテンハナムグリの中胸腹板突起が団扇状であるのに対し、シロホシハナムグリのそれは幅広い楕円形である。1965～2012年に昭和区内で採集し、シロテンハナムグリと同定した標本15個体を再検討したが、すべてシロテンハナムグリであり、誤同定はなかった。土中で成虫越冬する²⁾。秋に採集した♀は、飼育下で2回越冬した。クヌギ、コナラ、シイの樹液や、クリ、ホルトノキの花に集まる²⁾。分布：日本、朝鮮半島、中国、モンゴル、サハリン、ロシア南東部

5 タマムシ科

5-1 フチトリヒメヒラタタマムシ *Anthaxia rubromarginata*

標本：1 ex 20120503 昭和区八事本町興正寺 体長4 mm (写真5-1：ハルジオンの花にやってきた)

「縁取り姫平た」タマムシである。「フチトリ」とは、前胸背板の側縁が赤色ないし緑色に縁取られるという意味である。種小名の*rubromarginata*も「赤い縁」という意味である。コナラ、クヌギ、アベマキ、クリなどの葉、ノイバラなどの花に飛来する⁶⁾。分布：北海道・本州・九州、朝鮮半島、ロシア極東部

5-2 アオグロナガタマムシ *Agrilus viridiobscurus*

標本：1 ex 20060527 千種区東山公園 体長5.5 mm (写真5-2A)

青色～緑色を帯びた黒色。内側隆線は、弯曲しながら前角付近で側隆線に合する (写真5-2B。赤矢印：内側隆線、青矢印：側隆線)。ケヤキ、アブラチャン、シデ類などの各種広葉樹の葉に集まる⁶⁾。寄主植物：ヒメヤシャブシ、イヌシデ、アブラチャン、オニグルミ、マンサク、ケヤキ⁶⁾。分布：日本、中国

5-3 ヒシモンナガタマムシ *Agrilus discalis* *

観察・写真撮影：♂♀ 20120506 16:03 昭和区八事本町 (エノキ葉上) (写真5-3A)

標本：1 ex 20120503 同所 体長7 mm (写真5-3B)

『愛知県の昆虫 (上)』及び文献8には、名古屋市からの記録はない。「菱紋」ナガタマムシである。上肢に暗赤色の菱形紋がある。新成虫は秋に羽化し、エノキの葉を食し、樹皮下で成虫越冬する⁶⁾。越冬後の春4～5月にエノキ、ケヤキの葉や粗朶に集まる⁶⁾。分布：本州・四国・九州、朝鮮半島、台湾、中国、インド (カシミール地方)

5-4 ウグイスナガタマムシ *Agrilus tempestivus*

標本：1 ex 20190601 名東区猪高緑地 体長5 mm (写真5-4A)

内側隆線は強く湾曲する (写真5-4B。矢印：内側隆線)。クリ、シデ類、カシ類、ナラ類などの各種広葉樹の葉・粗朶・伐採木・枯木に集まる⁶⁾。分布：日本、韓国、中国、ロシア極東部

まとめ

以前の報告^{11, 14, 15, 16)}以降に、新たに同定されたカミキリムシ科13(7)種、クワガタムシ

科1(0)種, センチコガネ科1(0)種, コガネムシ科4(1)種, タマムシ科4(1)種を報告した(括弧内の数字は『愛知県の昆虫(上)』及び文献8に名古屋市からの報告がない種数を示す)。これらの大部分は、以前の報告以降に観察・採集されたものであるが、一部は未同定のまま標本箱の片隅に眠っていたものである。

文 献

- 1) 大林延夫・新里達也編：日本産カミキリムシ 東海大学出版会 2007 (ISBN：978-4486017417)
- 2) 日本産コガネムシ上科標準図鑑 学研教育出版 2012 (ISBN：978-4054038479)
- 3) 川井信矢：日本産コガネムシ上科図説 第1巻(食糞群) 昆虫文献六本脚 2008 (ISBN：978-4902649079)
- 4) 藤岡昌介・酒井香：日本産コガネムシ上科図説 第2巻(食葉群Ⅰ) 昆虫文献六本脚 2007 (ISBN：978-4902649031)
- 5) 小林裕和・松本武：日本産コガネムシ上科図説 第3巻(食葉群Ⅱ) 昆虫文献六本脚 2011 (ISBN：978-4902649048)
- 6) 大桃定洋・福富宏和：日本産タマムシ大図鑑 むし社 2013 (ISBN：978-4943955078)
- 7) 愛知県昆虫分布研究会：愛知県の昆虫(上) 愛知県 1990
- 8) 蟹江昇・戸田尚希：愛知県のタマムシ 佳香蝶 2008；60：207-230
- 9) 林匡夫・森本桂・木元新作編著：原色甲虫図鑑(Ⅳ) 保育社 1984 (ISBN：4-586-30071-X)
- 10) 黒沢良彦・日高敏隆編：原色昆虫百科図鑑 小学館 1967
- 11) 内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相 Ⅱ. 甲虫目(1) カミキリムシ科 椋山女学園大学研究論集(自然科学篇) 2008；39：97-109
- 12) 大林 延夫・佐藤正孝・小島圭三編：日本産カミキリムシ検索図説 東海大学出版 1992 (ISBN：978-4486011811)
- 13) 新訂原色昆虫大図鑑 第Ⅱ巻(甲虫篇) 北隆館 2007
- 14) 内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相 Ⅱ. 甲虫目(3) コガネムシ科 椋山女学園大学研究論集(自然科学篇) 2010；41：93-108
- 15) 内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相 Ⅱ. 甲虫目(2) クワガタムシ科 椋山女学園大学研究論集(自然科学篇) 2009；40：125-133
- 16) 内藤通孝：名古屋東山周辺の昆虫相 Ⅱ. 甲虫目(4) タマムシ科 椋山女学園大学研究論集(自然科学篇) 2011；42：67-77

1-1A



1-1B



1-2



1-3



1-4



1-5



1-6A



1-6B

名古屋東山周辺の昆虫相 追補1

1-7A



1-7B



1-7C



1-8



1-9A



1-9B



1-9C



1-10A



1-10B



1-10C



1-10D



1-11



1-12



名古屋東山周辺の昆虫相 追補1

1-13A



1-13B



2-1



3-1



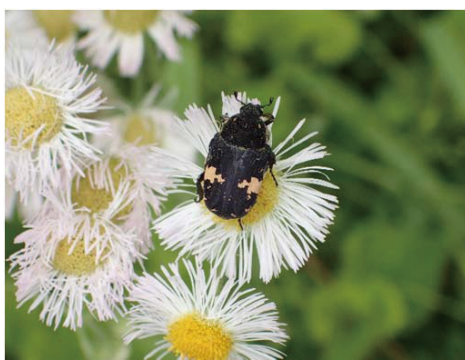
4-1



4-2A



4-2B



4-2C



4-3



4-4A



4-4B a



4-4B b



4-4C



4-4D



4-4E



4-4F

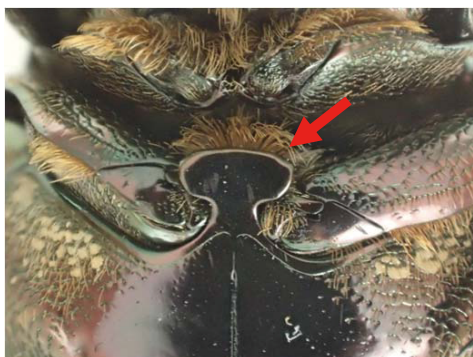


4-4G

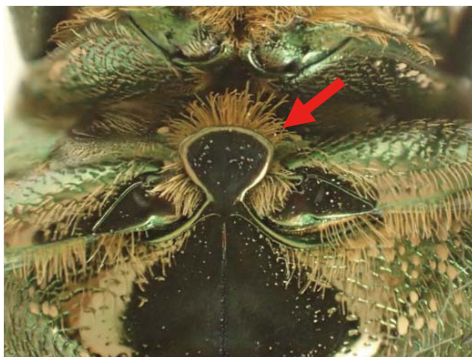


名古屋東山周辺の昆虫相 追補1

4-4H a



4-4H b



5-1



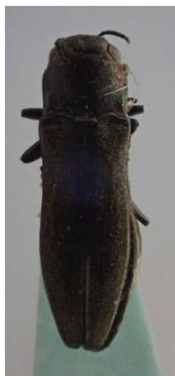
5-3A



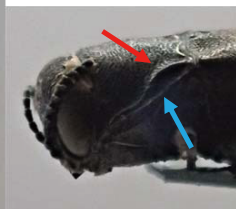
5-3B



5-2A



5-2B



5-4A



5-4B

